

授業科目	発達心理学特論		担当教員	遠藤 利彦	
展開方法	講義・演習	単位数	2単位	開設時期	後期（集中）
<b>【授業目標】</b>					
<p>人の発達に対する進化論的あるいは遺伝学的なアプローチが飛躍的に進展する中、従来の養育環境に関する見方が抜本的に問い直されてきている。しかし、発達の進化的基盤や遺伝的基盤を不当に無視するのではなく、それらを確かに踏まえつつ、発達に対する養育環境の役割を正當に位置づけ得るような理論枠は未だ不在と言わざるを得ない。今回の授業では、アタッチメント理論を始め、現在の発達諸科学の成果に基づきながら、人の（特に社会情動的側面の）生涯発達における養育環境の役割について改めて考究し、いわゆる「生まれと育ち」の問題に関する新たな統合的理解の枠組みを模索する。また、時に虐待や自閉症などの問題を扱いながら、遺伝と環境の絡み合いの様相をより具体的に捉え、さらにそれに関連して、実証的な発達研究と臨床実践とのあり得べき連携のかたちなどについても考察を試みることにしたい。</p>					
<b>【授業方法】</b>					
<p>授業は、基本的に講義中心で進めるが、折にふれて、参加者個々による研究発表およびそれに基づいたディスカッションも予定している。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>I. 関係性と社会情動的発達</p> <p>①私的発達心理学序論：錯覚と発達</p> <p>②生涯発達における生まれと育ち</p> <p>③発達の素地としてのアタッチメント</p> <p>④アタッチメントの個人差とその規定因</p> <p>⑤無秩序・無方向型とアタッチメント障害</p> <p>⑥アタッチメントの生涯発達と世代間伝達</p> <p>⑦アタッチメントをめぐる現代的諸問題：施設保育・病児保育／自閉症とアタッチメント／進化論近接 etc.</p> <p>II. 人の本源的な社会性と感情の発達</p> <p>⑧社会性とは何か：ヒトの本源的な社会性</p> <p>⑨社会性を紡ぐ感情：感情の合理性再考</p> <p>⑩自己と感情：その進化論・文化論</p> <p>⑪感情の発達とそれが切り拓くもの</p> <p>⑫社会的感性から情意理解へ</p> <p>⑬感情的知性・社会的知性の萌芽と発達</p> <p>⑭社会性の後成的構成論</p> <p>⑮総括と展望</p>					
<b>【評価方法】</b>					
<p>授業に対する参加度とレポートの内容等に基づき、総合的に評価を行う。</p>					
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>教科書 特に用いない。</p> <p>参考書 数井みゆき・遠藤利彦編「アタッチメント：生涯にわたる絆」ミネルヴァ書房</p> <p>遠藤利彦編「発達心理学の新しいかたち」誠信書房</p> <p>遠藤利彦編「読む目・読まれる目：視線理解の進化と発達の心理学」東京大学出版会</p> <p>D. エヴァンズ著（遠藤利彦訳）「感情：一冊でわかる」岩波書店</p> <p>数井みゆき・遠藤利彦編「アタッチメントと臨床領域」ミネルヴァ書房</p> <p>P. フォナギー著（遠藤利彦・北山修監訳）「愛着理論と精神分析」誠信書房</p> <p>小林隆児・遠藤利彦編「甘えとアタッチメント：理論と臨床」遠見書房</p> <p>遠藤利彦著「「情の理」論：情動の合理性をめぐる心理学的考究」東京大学出版会など</p>					
<b>【学生に期待すること】</b>					